



昭和大学藤が丘病院 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

病院だより

2022年5・6月
第346号

病院だより第346号（2022年5・6月号）
発行者 昭和大学藤が丘病院
昭和大学藤が丘リハビリテーション病院
発行責任者 藤が丘病院長 高橋 寛
編集責任者 広報・公開講座委員長 森岡 幹
〒227-8501 横浜市青葉区藤が丘 1-30
Tel 045-971-1151

新任のご挨拶

麻酔科の先生、導入をお願いします

藤が丘病院 麻酔科
診療科長 岡安 理司

4月より麻酔科診療科長を拝命いたしました岡安理司と申します。私は1993年に昭和大学を卒業後、昭和大学病院や関連病院での勤務を経て、2016年4月より藤が丘病院に勤務しております。



現在、院内の医師や看護師などの医療スタッフは、医療用のPHSや携帯電話を携行し、簡単に連絡を取ることが可能ですが、私が麻酔科医になった頃は、院内での使用はまだ一般的ではありませんでした。タイトルにあるような「ピンポン。麻酔科の先生、オペ室××番導入をお願いします。」といった放送がオペ室内に流れ、下級医の頃は上級医が来てくれるのを待ち、上級医になってからは呼ばれた部屋に慌ただしく向かっていました。

では、「導入」とは何でしょうか？ 麻酔導入とは通常意識状態から無意識の状態へ人工的に移行させることです。全身麻酔には他に維持、覚醒といったフェーズがあり、これら3つのフェーズは、飛行機の操縦での離陸・上昇、巡航、降下・着陸に例えられることが多いです。全身麻酔も飛行機の操縦も、ミスは人命に直結しかねません。このため、麻酔においても適切な実施計画、事前準備、不測のトラブルへの対処など、専門職の機能発揮が不可欠です。今後は、その中で事前準備にあたる術前診察の充実にも注力していきたいと考えています。

手術室では、各診療科医師や手術室看護師などと共に医療安全に最大に留意しながら、前任の桑迫教授の方針である「手術・麻酔は断らない」を引き継いで運営していく方針です。また、ペインクリニック外来は、米良特任教授が担当いたします。旗の台から来られるため、水曜日午後のみと時間に制約がありますが、痛みにお悩み患者さんでお困りの際はご相談ください。

マンパワーは決して十分とは言えませんが、皆様方にご迷惑をおかけすることのないよう、全力で取り組んでまいります。

さらなる連携

藤が丘リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター
技師長 齊藤 哲也

4月より昭和大学藤が丘リハビリテーション病院のリハビリテーションセンター技師長を拝命しました。私は、1999年4月の入職から3年間藤が丘病院へ理学療法士として勤務し、その後、横浜市北部病院で約13年間急性期医療に携わってきました。当院への勤務は、2015年に電子カルテの導入準備が開始された時期からです。電子カルテの導入により、横浜3病院は、さらなる連携がとれるようになりました。回復期医療を担う当院にとって、藤が丘病院・北部病院をはじめとした急性期病院や地域との連携は、今後さらなる発展が必要だと感じております。



リハビリテーションにおいて大切なのは、専門職としての知識や技術、効果的なコミュニケーションによる関連部署との連携です。そして、多職種との協力を得たうえで成り立つ、患者さんを中心としたチーム医療の充実です。中枢疾患・整形疾患・内科疾患すべてに対して総合的に十分なリハビリテーションを提供できるよう、今後も精一杯取り組んでいく所存です。また、研究・教育機関としては、保健医療学部と十分な情報共有ができるよう関係性を深めていきたいと思っています。

近年、医療をとりまく社会保障情勢は、2025年問題に対応すべく大きな変化の時期を迎え、リハビリテーションニーズは質的・量的に大きく変化しています。その一方、働き方改革による働く側のニーズの多様化への対応や、新型コロナウイルス感染症対策での柔軟な職場環境整備が必要とされています。このような状況下において、リハビリテーションセンターが社会貢献していくためには、マネジメントの果たす役割は大きいと感じています。至誠一貫の精神に基づき、組織に愛を抱き、やりがいや夢をもって働き続けられるスタッフを育成するため、説明や動機付けをしながらスタッフと向き合い、方向性の定まった高いチーム力を発揮できるようリハビリテーションセンターの舵取りをしていきたいと思っております。今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

「CE」をご存じですか？

藤が丘病院 臨床工学室 責任者

野川 悟史

「CE」という言葉を耳にしたことはありますか？ Clinical Engineersの略であり、「臨床工学技士」のことです。コロナ禍において、メディアなどでECMO（エクモ）という治療に関連して耳にする機会も増えてかもしれませんが、この度、CEについて説明させていただきます。



CE（臨床工学技士）は、「医師の指示の下に、生命維持管理装置の操作及び保守点検を業とする者。」と、法律で定められた国家資格です。病院内の医療機器のスペシャリストであり、ECMO や人工呼吸器、透析装置などの生命維持管理装置を安全に確実に使用できるよう、チーム医療の一員を担っています。また、コロナ禍で家庭内でも頻繁に使用される「パルスオキシメータ」や血圧計・体温計など、病院内で使用されている多種多様な医療機器を安全に使用できるよう保守管理の技術を提供しています。

申し遅れましたが私、2022年4月より昭和大学藤が丘病院臨床工学室の責任者に就任いたしました野川悟史と申します。今回、就任にあたり最新の医療機器の情報とCEの関わりについてお伝えしたいと思います。まず、最新の医療機器として、例えば先程も挙げましたパルスオキシメータは、数値や測定状態を医療従事者のスマートフォンに送信することがIoT^{*1}技術により可能となりました。また、DX^{*2}化により病院内の医療機器の状況を直接現場で確認をせずに行えるようになっており、コロナ禍において対面が難しい中での遠隔医療などもIoT、DX化により実現されつつあります。充実した医療を簡便で便利に提供が可能となりますが、そのインフラの整備には必ず医療機器が介入します。その中でCEとして、資格の名称に「臨床」が冠される通り、修理や保守だけでなく臨床、患者さんの近くで働き、医療資格の中で唯一「工学」という学問の名が入る医療者として、工学と医療の両方の知識を持って医療現場に貢献し、至誠一貫の志で日々精進していきます。

*1IoT (Internet of Thing)

医療機器や家電などをインターネットにつなげ、生活環境の利便性を高め、生活の向上に活用すること。

*2DX (Digital Transformation)

IT ツールやデジタル技術を活用し、ライフスタイルをより豊かにするための取り組み。



新人からのメッセージ

第一歩

藤が丘病院 臨床研修医 宮本 幸太

今年度から昭和大学藤が丘病院に入職させていただいております研修医1年目代表の宮本幸太と申します。藤が丘病院だよりをご覧の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年度入職した研修医1年目は皆、藤が丘病院の一員としての責任感と、1人の医師として働くことができる喜びを感じています。数ヶ月前までは学生の身分であった私達が、実際に患者さんの前に立って医療の一端を担っていくことに対する緊張や不安もありますが、尊敬できる先輩方や信頼できる仲間と共に、医師としての第一歩を踏み出していきたいと思っております。

至らない点も多々あるかと存じますが、皆様におかれましては今後ご指導・ご鞭撻、ならびにご協力のほどお願い申し上げます。

看護師としての第一歩

リハビリテーション病院 4階看護師 森田 夕稀

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院に配属となりました新人看護師の森田夕稀です。私は学生時代の実習で、病棟内の温かい雰囲気を感じるとともに、看護師同士の連携が図られていると感じ、藤が丘病院・リハビリテーション病院を希望しました。

入職し2ヶ月がたちますが、日々学びを積み重ねることで、看護師としての責任感を強く感じています。私が所属する回復期病棟は、社会生活への復帰に向け、患者さんの能力を最大限に活かすことができるような看護が重要であると考えます。患者さん1人1人に寄り添い、強みを引き出すことができるよう、患者さんとの関わりを大切にしていきたいです。未熟な面もありますが、先輩看護師や患者さんから多くのことを学び、信頼できる看護師になれるよう努力していきます。

学びの臨床研修薬剤師

昭和大学藤が丘病院 薬剤部
臨床研修薬剤師 坂間 利奈

4月より昭和大学藤が丘病院に臨床研修薬剤師として入職いたしました坂間利奈と申します。入職から約2ヶ月が経ち、少しずつではありますが職場にも慣れ、現在は調剤業務を中心としたセンター業務を通して、学びの

多い日々を過ごしております。今後、病棟業務やチーム医療に参加できるようになる頃には、今以上に知識を深め、患者さんにとって安全で適切な薬物治療の提案ができ、多職種と連携しチームの一員として責任ある行動を取れる薬剤師になり貢献していきたいと思っております。

最先端の医療や薬物治療などを学べる環境にある大学病院で、大切なスタートとなる研修を行えること、先輩方から丁寧なご指導を頂けること、また共に学び成長し合える同期がいることを大変嬉しく思います。

至らない点も多くあると思いますが、より一層精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

必見！30秒でわかる加藤大雅！

藤が丘病院 臨床工学室 加藤 大雅

今年度入職いたしました臨床工学技士の加藤大雅と申します。私は青森県五所川原市出身で、北里大学を卒業しました。学生時代はアルティメット部に所属していました。体を動かすのがとても好きで、今でも社会人のアルティメットチームに所属してアルティメットをしています。アルティメットを行うことで、医療に必要な体力の維持に努めております。

今はたくさんの方々に助けていただく機会が多いです。そのため、日々の仕事において目標を持ち、疑問に思ったことを率先して解決していく姿勢で、経験や知識を重ね成長していきます。また、先輩方や他職種の方に信頼され、患者さんにも頼っていただけるような臨床工学技士になりたいと考えています。

全員協働の病院運営

藤が丘病院 管理課 企画庶務係 廣井 高志

この度、5月より昭和大学藤が丘病院管理課企画庶務係に配属されました廣井高志です。学生時代は体育大学ということもあり、スポーツにかなり熱中していました。事務職ということでデスクワークが主になるので、今後は時間を見つけては体を動かすようにしたいと思います。

5月より配属され、まだまだ業務内容も分からないことばかりです。特に、これまで耳にしたことのない専門用語が飛び交う中、先生方のご用件にうまく受け答えができないことが多々ありました。しかし、先輩方は優しく丁寧に教えてくださるので、この環境下で日々業務ができることに感謝しながら、一刻も早く業務に慣れたいと思います。

今後は「チーム医療」の一員として多種多様な医療従

事者の方々と協働で病院運営をしていく所存です。まだまだ未熟者ですが、ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

第42回 藤が丘地域連携フォーラムを開催して

4月14日(木)、第42回藤が丘地域連携フォーラムを開催いたしました。本フォーラムは新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、昨年度よりオンラインでの講演として行いました。

今回の藤が丘地域連携フォーラムはご多忙の中、45施設51名の医療機関の先生方等院外関係者の皆様、医師等院内関係者43名の総勢94名の方にご参加いただきました。皆様方には心より御礼申し上げます。

第42回藤が丘地域連携フォーラム講演会

1. 「産婦人科のロボット支援下手術」
昭和大学藤が丘病院 産婦人科 中山 健
2. 「昭和大学藤が丘病院におけるロボット支援下直腸手術の導入」
昭和大学藤が丘病院 消化器・一般外科
梅本 岳宏

次回は令和4年7月14日(木)に開催を予定しております。皆様方のご参加を心よりお待ちしております。

(藤が丘病院 医事外来課 高橋 美保)

病院機能評価認定更新審査を終えて

藤が丘病院は、5月12日(木)・13日(金)の2日間にわたり、日本医療機能評価機構による認定更新審査を受審しました。当院では平成23年に初めて受審してから今回で3回目の審査となります。

病院機能評価は、患者さんが安全で安心な医療が受けられるよう、4つの領域から構成される評価項目を用いて、病院組織全体の運営管理および提供される医療について多角的に評価します。

当初は令和4年2月に更新審査を受審する予定でしたが、新型コロナウイルスの第6波の渦中にあっただけで、機構側と協議し延期することとしました。

しかし、そのコロナ禍でも高橋病院長を筆頭に職員一丸となり、院内全体を振り返りながら課題の認識ならびに質改善活動を推し進めてまいりました。

受審の事前準備には時間を要しましたが、病院全体で

医療の質をあらためて見直すことができ、とても有意義な時間であったと思います。

さいごに認定更新審査を受審するにあたり、事前の学内機能評価では、上條副理事長をはじめとする学内サーベイヤーの方に多大なご指導をいただきましたことをこの場を借りてお礼申し上げます。

(藤が丘病院 ｸﾘﾅｲｸﾞ ﾏｲﾄﾞ 小暮 祐二)

信頼される検査を！ソノグラファーの奮闘
臨床病理検査室 超音波検査部門 北井 仁美

皆さんはソノグラファーという職種をご存知でしょうか？ 欧米では、超音波検査を行う技師のことを言いますが、日本では認定資格のひとつである「超音波検査士」のことを言います。超音波検査室には、腹部・心臓・甲状腺・乳腺・頸動脈・下肢動脈・下肢静脈など体の様々な部位の超音波検査を行う10名の臨床検査技師が在籍し、その中の7名が消化器・循環器・体表臓器・血管と様々な領域の認定を取得しているソノグラファーです。



この資格は、3年以上の実務経験が必要なため、臨床検査技師は取得を目指して、技術や知識を養い日々努力を重ねています。また、超音波検査において、良い画像を撮像し正確な計測を行うためには技術と知識が必要であり、日頃から幅広い診療科の先生方にご指導をいただきながら研鑽を重ねています。

検査の質という点で、新たに日本超音波検査学会において2019年度より画像コントロールサーベイ、2022年度より「超音波検査室の精度認定制度」という取り組みが開始されました。これは、検査が標準化され、かつ精度を保証されている施設に認定される制度です。当院の超音波検査室では、腹部領域・心臓領域・体表臓器領域・血管領域において2019年度より画像コントロールサーベイに参加し2年連続でA評価を取得、今年度この精度認定制度を受審します。患者さんや医師へ検査の精度や質を信頼していただけるよう、スタッフ一丸となり取り組んでいます。

超音波検査は、健康診断や妊婦さんでも行われるため多くの方が超音波検査を受けた経験があるかもしれませんが、非侵襲性の検査ではありますが、検査時間は20分～30分とやや長くかかり、体位や呼吸調整の協力をしていただきますので患者さんに身体的負担をおかけします。一方、ソノグラファーも画像を見やすくするために照明を落とし、薄暗い部屋の中で目を凝らして画像を見つめ、無理な姿勢をとりながらの検査でも患者さんに笑顔で接し、赤ちゃんから高齢者まで年齢を問わず寄り添い、首から足先まで広範囲にわたる検査に日々奮闘しています。

今後も患者さんに安心して検査を受けていただき、信頼できる検査結果を提供し、治療や診断の一助となるよう努めてまいります。

診療統計 2022年4月・5月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2022年4月	2022年5月	2022年4月	2022年5月
外来患者数	23,764人 (950.6人/日)	21,515人 (935.4人/日)	4,229人 (169.2人/日)	4,114人 (178.9人/日)
入院患者数	13,398人 (446.6人/日)	13,863人 (447.2人/日)	5,333人 (177.8人/日)	5,284人 (170.5人/日)
紹介率	79.3%	98.7%	75.4%	80.3%
逆紹介率	92.2%	81.3%	73.7%	82.6%

《広報・公開講座委員会委員》

森岡 幹 酒井 広隆 鈴木 洋 佐々木 春明 今井 敦 市川 度 松原 大
 小岩 文彦 高木 睦子 前田 うづみ 山寺 志保 孫 雨晨 岡部 圭吾 門田 美佳
 川手 信行 佐藤 美津恵 西村 栄一 廣井 高志 高橋 良治 (順不同)